

2007 年度事業に関する事項 【事業報告書】

2007 年度は、将来構想に向けて具体的に一步を踏み出す年として、8 項目の目標を立てました。

第 1 は「チャイルドラインを広く社会に知らせる」です。フリーダイヤルによる第 8 回「こどもの日全国キャンペーン」、「2007 チャイルドライン秋の全国キャンペーン」を実施しました。2 年に 1 度の「全国フォーラム」を石川県で開催し、延べ 600 名の参加を得ました。また、電話番号を知らせるカードやポスターの配布、キャラクター募集事業、ウェブサイトのブログ化などを通じて、情報の提供に努めました。

第 2 は「チャイルドラインの水準を確保する」で、「支え手」をテーマにしたテキストを作成しました。また、希望する団体に対して、商標登録の基準に照らした「支え手研修」を行いました。

第 3 は「チャイルドラインの設立、運営支援」のための事業です。開設支援のための「啓発フォーラム」を 3 箇所で開催しました。発足は 5 箇所あり、2008 年 3 月末現在、36 都道府県 65 箇所になりました。チャイルドラインのない県は 11 県です。また、「文部科学省の調査研究委託事業」として、全国 24 都道府県 34 団体の公開講座の支援を行いました。広報においては、2 回のキャンペーンなどで、カード・ポスター製作などの支援を行いました。

第 4 は「チャイルドラインの将来構想実現の具体化」です。将来構想の 1 つである「統一番号・フリーダイヤル化」を具体化するために、「2007 チャイルドライン秋の全国キャンペーン」及び「将来構想・地域会議」を 3 回実施し、「統一番号・フリーダイヤル化」に関して大きく成果をあげることができました。また、「地域会議」を通して将来構想の重要な一角である「質の確保」の重要性を再確認しました。

第 5 は「子どもの声の社会化と子ども政策への反映」のための事業です。「2007 チャイルドライン年次報告」を 3000 部発行し、各所に配布しました。また、3 年計画で、外部の専門家への委託も含めて、「子どもの声の社会化委員会」を発足させました。今年度は主に子どもの声を社会に戻していくための手法の研究と、子どもの声を直接聴く「子ども会議」を 4 箇所で開催しました。「チャイルドライン支援議員連盟の勉強会」においても、積極的に子どもの状況を伝えました。また、データベースの運用を日常的に始めました。

第 6 は「他機関との連携や企業との協働」です。2007 年度は、他機関との連携や企業との協働が大きく進み、「文部科学省の調査研究委託事業」の受託、「子どもの声の社会化委員会」での外部調査委託、「キャラクター募集」における協賛や授賞式会場の当日運営、朗読劇の上演などが実現しました。

第 7 は「財政基盤の強化」事業です。子どもに夢を伝える「夢メッセージ展」は 3 年連続開催しました。企業からの協力や助成金の獲得にも努力しました。特筆すべきことは、「統一番号・フリーダイヤル化」を継続的に実施するために、総務省の協力を得て通信 3 社からの協賛を得られたこと、文部科学省から秋のキャンペーンや全国各地で行われた公開講座への資金援助など、行政からの支援を受けられたことです。今後は、新たに作成したキャラクターを使用してのファンド活動に期待されています。

第 8 は「世界子どもヘルプラインネットワークへの参画」です。タイのバンコックで開催された「第 3 回 CHI アジア太平洋地域会議」に 3 名（うち 2 名が理事）が参加し、会議以外にも、タイの NGO 訪問をし、交流を図りました。

1 事業に関する事項

1: チャイルドラインを広く知らせるために、「子どもの日チャイルドライン」全国キャンペーン、秋のキャンペーン、全国フォーラムを実施した。

(1) 第8回「子どもの日チャイルドライン」全国キャンペーンの実施

実施期間：2007年5月5日(土・祝)～5月11日(金)

参加団体：33都道府県55団体

回線数：96回線

総アクセス数：19,399件

総着信数：10,260件

配布物：カード435万8200枚、ポスター2万5800枚

総アクセス数は一昨年より約3万件も少なく、総着信数も半分に減った。背景として、通常のチャイルドラインの活動が定着し子どもたちに浸透していて、キャンペーンだからととりたてて電話をかける必要がなくなった、2006年秋のいじめ問題以降、子どもの電話相談窓口が増え(文科省の『24時間いじめ相談ダイヤル』『法務省の子ども人権110番』など)、選択肢が多くなった、電話よりメールでのコミュニケーションの割合が増えている、子どもたちにチャイルドラインへの信頼が欠けてきている、などが考えられる。そのほか、広報の問題やIP電話の登場など、さまざまな要因が重層的に重なっていると思われるが、件数が減ってきていることについては継続して考えていくべき重要な問題ではないかと考えられる。

(2) 秋のキャンペーンの実施

実施期間：11月1日～30日(日曜日を除く)

参加団体：57団体

回線数：23～40回線/1日

延べ開設時間数：3,588時間

フリーダイヤルの総アクセス数：37,492件

総着信数：23,541件(フリーダイヤル18,737件)

配布物：カード475万枚、ポスター7万枚

「全国統一番号・フリーダイヤル化の実現のための試行」として実施した今回は、1ヶ月間、開設時間中なら子どもたちがいつでもどこからでも電話を掛けられるように、全国のチャイルドラインで無理のない体制もしくは実現可能な体制強化をはかった。広報ではチャイルドラインのない県に対しても文部科学省の協力を得てポスターを掲示した。また、フリーダイヤルの年間実施を念頭に置き、継続的なフリーダイヤル料金確保を視野に入れた資金調達を図った。

その結果、年間実施が可能なが分かり、企業の継続的な協賛・電話料金の割引などが実現し、資金調達も全国規模なら可能性が高いことが分かった。また、文部科学省の調査研究委託事業として実施できたことや広報協力を得られ、総務省を通して通信3社の協賛が得られたことなど、行政との関係作りが進んだ。

(3) チャイルドライン全国フォーラム in いしかわの開催

日時：2007年10月20日(土)～21日(日)

会場：20日 石川県立音楽堂&金沢都ホテル

21日 石川県立生涯学習センター

テーマ：気づこうよ、子どもの声に！感じようよ、子どもの気持ち！

～チャイルドライン・一本の電話に子どもの力を信じて～

参加人数：600名(うち一般350名)

実施団体が一同に会し、受け手・支え手・運営など、すべての立場の人が集まり、子どものニーズと団体のもっている力量や体力をどう近づけていくのか、「確かな社会基盤としてのチャイルドライン」という視点で、今何が必要か、自分に何ができるか、自分の立場にひきつけて考える場として、全国フォーラムを開催した。

一日目は公開プログラムとして記念講演「子どもが求めているもの」(演者：日本臨床心理士会会長 村瀬嘉代子氏)、関係者プログラムとして、将来を見据えた視点でチャイルドラインを考えるシンポジウム、二日目は受け手、支え手、運営に分かれての分科会を行った。

第5回目になる今回は、チャイルドラインいしかわを実施している子ども夢フォーラムが実行委員会をつくり開催した。初めて、文部科学省、厚生労働省の担当者の来場もあり、統一番号、フリーダイヤル化、24時間、365日など、「将来構想」の具体化についての知恵をあつめ、次の10年への道筋を考え、検討していくことをスタートさせたフォーラムとなった。

(4)HP や携帯サイトの更なるリニューアル

情報発信を更に充実させるために、大人・支援者向けにPC版HPのリニューアルを図り、ブログシステムの導入によって随時更新を可能とした。子ども向けには、新キャラクターを用いた携帯サイトとして、より見やすく、わかりやすい形にリニューアルした。

2：2006年12月に制定された商標の使用基準を公正に適用すると共に、2007年3月に改訂された「ガイドライン2007」の徹底をはかり、チャイルドラインの水準を確保し、更なる質の向上を目指して合同研修を開催、また新たに支え手をテーマとしたテキストを作成した。

(1)「商標使用に関する基準の審査準備委員会」の設置

「チャイルドライン」の商標の使用基準について、常務理事と理事からなる「商標使用に関する基準の審査準備委員会」を設置し、理事会に提案するための使用基準の予備審査を行いました。その結果、新たに5団体に対して、商標使用を認定した。

(2)合同研修の開催

地域の交流機会であり、情報交換の場としての合同研修を、「将来構想・地域会議」とあわせて実施した。

(3)テキストの作成(支え手)

テキストの課題を「チャイルドラインとしての支え手」としました。支え手を必要とする背景、支え手の機能の整理、支え手とは何か、支え手研修のあり方、受け手から見た支え手、支え手が考えていることとして、チャイルドラインの支え手としての基本、および認識しておかなければならないことについて網羅した。

3：チャイルドラインの実施地域を拡大するために、より積極的に現在実施の無い地域に設立を促す開設支援事業を実施した。また、既に実施しているチャイルドラインの運営を支援するために、各団体個別の相談に応じる各種支援事業および、広報活動に対する支援を行なった。

(1)開設支援事業の実施

チャイルドラインが無い県を中心に、子どもの声に耳を傾けることの啓発を行い、子どもの声の受け皿となる大人が育つことを目的に啓発フォーラムを行った。今年度は、5団体(1団体は既設県)が新しくチャイルドラインとして発足し、チャイルドラインのない県は15県から11県に減った。3月末現在で36都道府県65箇所、準備会が3箇所となった。フリーダイヤルが実現すれば、全国どこからでも電話を受けることはできる。しかし、地域づくりをしていくという、チャイルドラインのもう

1つの目的を達成するためには地域にチャイルドラインがあることは重要なことだ。情報を寄せ合い、全国にチャイルドラインを作っていく努力が求められる。

< 啓発フォーラム実施日及び参加者 >

- ・静岡県 2008年1月26日 100名
- ・熊本県 2008年2月11日 180名
- ・青森・秋田両県 2008年2月17日 73名

< 2007年度発足のチャイルドライン >

- ・チャイルドライン岩国ステーション：2007年7月
- ・チャイルドラインさせば：2007年9月
- ・チャイルドラインあきた：2007年11月
- ・チャイルドラインおきなわ：2008年3月
- ・静岡ハート・チャイルドライン：2008年3月

(2) 各種支援事業（設立・運営・支え手等）の実施

既に実施しているチャイルドラインが直面する様々な問題に、丁寧にサポートしていくために、各種支援事業を実施した。

(3) 研修支援事業の実施

2007年度は、文部科学省からの委託事業である「不登校への対応におけるNPO等の活用に関する実践研究事業」を活用して、24都道府県の34団体に対して、研修支援を行った。参加者は、のべ約3000名にのぼった。各地の研修においては、公開講座形式で実施し、現代の子ども姿などを通して、いじめや不登校、ひきこもり、非行、虐待等の現状について、また、聴くということ、コミュニケーションなどをテーマに子どもへのサポートや支援について学び合った。

(4) 広報支援の実施

チャイルドラインのことを多くの子どもたちに知らせるために、名刺大のカードやポスターを作成し、学校やコンビニエンスストア、商店街などにおいて配布・掲示を行った。

- ・支援カード 総数 = 984万4000枚
 - 子どもの日 = 435万8200枚
 - 秋のキャンペーン = 480万1800枚
 - 通常 = 68万4000枚
- ・支援ポスター 総数 = 10万800枚
 - 子どもの日 = 2万5800枚
 - 秋のキャンペーン = 7万5000枚
- ・その他 チラシ = 10万5000枚

4：チャイルドラインの将来構想をより具体化し実現に向けて話し合いの機会を設け、同時に調査研究・基盤整備を進める。

(1) 将来構想

2007年度通常総会で、2009年度から「統一番号フリーダイヤル」化を図ろうとのイメージの共有がなされた。その将来構想を実現していくためには地域のチャイルドライン同士、地域のチャイルドライン実施団体と支援センター間での話し合いが重要で、丁寧に、その話し合いをしていくために、3回の地域会議を開催した。

第1回：8月 （東京・福岡） 参加57団体

第2回：12月（東京・大阪） 参加 53 団体

第3回：3月（東京） 参加 53 団体

第1回の会議は、統一番号に対する実施団体からの意見をひろく聞くというものになり、フリーダイヤル化を進める前にやるべきことがあるとの指摘もあった。チャイルドライン側の資質の向上、研修の問題や、団体の運営基盤の整備の問題だった。第2回の会議では秋のキャンペーンのまとめと将来構想への具体的なイメージを共有していくための話し合いが行った。第3回の会議では、具体的なシミュレーションを提案するに至った。また新統一番号も団体間の意見集約を受けて決定された。さらに、研修や運営基盤の問題では、自立した組織として在るチャイルドライン実施団体と、支援センターとの役割分担をする必要があったが、この3月の地域会議で、一定の整理をすることができた。

5：チャイルドラインで受けた子どもの声を社会に還元するために、1年間に全国のチャイルドラインが受けた子どもの声や活動をまとめた「年次報告」を作成、配布した。また、蓄積された子どもの声を積極的に社会に還元し政策等に反映させていくために、子どもの声の社会化事業を実施する。さらにチャイルドライン支援議員連盟と連携しながら「子どもの権利条約」に謳われる子どもを支える社会環境をつくる政策づくりへつなげていく。

(1)「2007チャイルドライン年次報告」の作成、配布

テーマを「広がる期待、求められる質」として、年間13万件にもものぼる子どもからの電話があった中、チャイルドラインに対する期待に応えていくためには、私たち自身が厳しくチャイルドラインの質を問い直すことが大切である、という視点を確認。3000部作成し、行政、各団体、企業などに配布した。

(2)子どもの声の社会化事業（データベース、子どもの権利条約を含む）の実施

チャイルドラインに集まった「子どもの声」電話データ等を分析し、日本社会に対してチャイルドラインから見えてくる子どもの状況を発信し、とくに子どもの声を通して、子どもとおとなとの関係の改善、おとな側の子どもとの向き合い方についての改善をはかることであり、さらには子どもたちの多様な声を受け止めて、チャイルドライン活動の自己評価をはかり、今後のチャイルドラインの進め方、その諸活動に生かすことを目指す、3カ年計画の1年目として活動を行なった。

1年目の2007年度は地域予備調査・分析及び基礎研究として、チャイルドラインに集積された5年分のデータをどのように分析するのか。データは、各地の電話の受け手によって作成された記録用紙であり、そのデータが「子どもの声」そのものではなく、受け手のフィルターにかけられた二次データで、この二次データからどんな「子どもの声」が抽出可能なのか、その分析手法と予測される成果の枠組みを検討した。

ワーキンググループでは、「記録」から分析の手法や視点の整理を行った。また、二次データではない「子どもの生の声」を聴くべく大阪、東京、宮城・千葉・埼玉の5箇所子ども会議を開催し、小・中・高生たちの生の声を聴いた。

(3)議連、省庁、国会

支援議員連盟の勉強会は3回開催され、日本の子どもたちの現状を憂い、チャイルドラインを一步前進させるために行動を起こそうと決議した。また、議連のメンバー（保坂展人議員、小宮山洋子議員、後藤田正純議員、馳浩議員秘書、田島要議員秘書）が支援センターと共に通信3社を訪問し、支援を訴えた。その後、支援センターと3社の間では話し合いが継続し、この支援が、フリーダイヤル化に踏み出す後盾になっている。この動きの経過の中では、総務省が3社との関係づくりに協力をし、(財)マルチメディア推進センターも協力してくれた。

11月の虐待防止月間に行われた「子どもの虐待防止推進全国フォーラム in くまもと」(主催：厚生労働省)には、パネリストとして参加した。

また、国会内にチャイルドラインを広く知ってもらおうと、夢メッセージ展を2008年3月4日に初めて議員会館の中で行ない、国会議員や議員秘書、インターンの学生や会館職員など、たくさんの参加者があった。

6：子どもの権利条約に保障された、さまざまな子どもの育ちを支える社会環境をつくるため、他機関と連携し、また企業などと協働した。

(1)企業との協働実践

寄付

総額 36,582,774 円

ゴールドマンサックス証券(株)、(株)フォーリーフジャパン、フォーリーフ基金、エキスパートアライアンス(株)、NTT、日本アムウェイ(株)、日本ケロッグ(株)、(株)ブルームーンブルー、KDDI、ソフトバンクグループ、三和シャッター(株)、東京ガス(株)、(財)資生堂社会福祉事業財団、ドリームエリア、ほのぼの運動協議会、匿名1社、個人寄付、チャリティ寄付

企業等との関係づくり

<継続しての御支援>

- ・日本ケロッグ：子どもの日全国キャンペーンへの支援をいただくとともに、市販されているケロッグ商品内に、チャイルドライン支援センターを支援しているメッセージを印刷
- ・NTT、東京ガス、匿名1社：子どもの日全国キャンペーンへの事業協賛金
- ・エキスパートアライアンスチャリティアソシエーション：活動支援金の寄附を受けた
- ・フォーリーフジャパン：子どもの日全国キャンペーンと秋の全国キャンペーン広報への協賛金を受けた

<新たなご支援>

- ・KDDI、ソフトバンクグループ：秋の全国キャンペーンへの事業協賛金
- ・ゴールドマン・サックス証券株式会社：キャラクター作成事業に対する活動支援金
- ・ザ・リッツカールトン東京：キャラクター発表会における会場提供
- ・協賛企業：キャラクター作成事業に対して協賛企業賞の提供
- ・NPO法人スポーツエンターテイメント：「湘南サッカーフェスティバル」において、チャイルドラインカードの配布、当日配布パンフレットにチャイルドラインの広告掲載など
- ・日本俳優連合：絵馬展において朗読劇を実施
- ・まちcomi：実施している「携帯情報発信」事業において、登録者がアンケートに協力するごとに協賛金をいただいた
- ・ブルームーンブルー：全国の各店舗においてカード配布、ポスター掲示、募金箱の設置および店舗ごとの寄附をいただいた
- ・ほのぼの運動協議会：全国の各店舗においてカード配布、ポスター掲示、募金箱の設置および店舗ごとの寄附をいただいた
- ・ナムコ：ナムコワンダーパークにおいて、カード配布、ポスター掲示

(2)各種イベント・学会等へのブース参加

- ・日本小児科医会：会員である全国の小児科委員において、カード配布やポスター掲示

7：2009年度の統一フリーダイヤル実現に向けて、チャイルドライン支援センターの財政基盤を強化するため、夢メッセージ展でのチャリティグッズ販売を進め、また積極的なファンド作りの活動を行った。

(1)チャイルドライン夢メッセージ展の開催

開催場所：全国 27 箇所

絵馬提供者数：128 人

来場者数：20,133 人

今年度は、商店街の各店舗店頭での展示、日本俳優連合との協働など、各地で様々な工夫を凝らして絵馬展が開催された。

(2)ファンド

ファンド担当者のファンド活動費を保証しながら、継続的に支援を得られる企業の開拓を行った。また、引き続きファンドマネージャーと連携し、フォーリーフジャパンとの協力を維持した。

8：「世界子どもヘルプラインネットワーク（CHI）」に参画し、世界とつながりを持った。

(1)世界との交流

CHI ニュースなどにより、世界のチャイルドラインの実施状況等を把握しながら、日本の将来構想への足がかりとした。

(2)CHI アジアパシフィック大会参加

タイのバンコックで開かれた「第 3 回 CHI アジア太平洋地域会議」に参加し、アジアの国々のチャイルドラインと交流を深めた。また会議以外にも、タイの NGO 訪問をし、交流を図った。